

TS（トータル・サティスファクション）を目指して①①

「一つ学んだら、一つ実践」

校長室担当より

先週は、大学の先生に講師をお願いして、先生方と一緒に研修を受けました。外国語学習が専門の私にとっても、本当に示唆に富んだ興味深い研修でした。先々週も、私は教育センターで校長研修を受けました。この研修は、実際のある場面を想定した体験型のものでしたので、本当に大きな経験とすることとなりました。学ぶ機会が多いということは、本当に幸福なことだと思います。

研修を自分にとって価値あるものに変えられるかどうかは、自分自身のその後の行動にかかっています。研修を終えた人のタイプは、大きく二つに分かれるようです。一つは、「いい勉強になりました。」と言うにとどまるタイプ。このタイプの人はおそらく何年か過ぎた後に会った時には、かなりその時の熱が冷めてしまっていて、何も変化が起こっていないことが多いようです。結局、人間は頭の中で理解しただけでは、時間が経過するとともに忘れてしまうものなのです。「いい勉強になりました。」と口にする程度の学びのレベルで満足しては、いくら感動した内容であったとしても、本当の学びとはならないと思います。

もう一つのタイプは、学んだ内容を欠かさず実践に移していくタイプです。このタイプの人には「すっかりモノにできました。」という感覚が持てます。研修内容を頭だけで理解するか、実際に自分の行動の中に落とし込んで、自らを変えていくことができるかの違いはとても大きいと思います。実際に、研修や実地指導等で助言されたことを授業等で習慣化して、子どもたちへの見方が変わったという報告を何件も受けています。確かに、様々な研修の中で伝えられる内容は多いので、すべてを実践することは難しいかもしれません。でも一つでいいと思います。学んだ後で、一つでも実践に移せば、確実に一つ変わります。

大切なのは、そこにほんの少しの勇気と素直さがあるかどうかです。授業に関わることだけでなく、挨拶でも、履物を揃えることでもいいのです。研修だけでなく、他の人が実践されていることを見て、いいことだなと思ったら恥ずかしがらずに実践に移してみる。これを続けると、

時間の力を得てこの学びが本物となり、自分の生き方にも磨きがかかります。それが私たちの成長なのだと思います。(令和3年11月8日)

本校教職員として目指す方向性(確認)

※4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める